

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年3月24日

公表: 令和4年3月31日

事業所名 上代継在宅地域支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		<ul style="list-style-type: none"> ・マットを増やし、スペース確保に努め、利用者間隔を1メートルは保つようしている。 ・1日の利用人数をみてスペースの確保を充分に行うことができた。その日の登園者の人数に合わせて、一人一人のスペースを確保するようしている。 ・限られたスペースを有効に使用できるように、物品の配置の仕方、整理の仕方を配慮している。 ・活動に応じてマットを移動したりしてスペースの確保をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントなど広いスペースが必要な場合はバギーなど別室に収納している。
	2	職員の配置数は適切である	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・基準以上の人員を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が朝から常駐できないことがあった為、人員の確保をしてほしい。 ・利用者の人数に対して、スタッフの人数が少ないと感じることがある。特に、通園幼少専任の看護師が必要だと感じることが多い。 ・PT・OT・ST・看護が兼務となっており、情報の共有化の工夫はしているが、専従配置が理想である。 ・急な休みになった時のフォロー体制が出来るとよい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・靴箱には写真を貼って視覚的にわかりやすくしている。 ・写真スケジュールを利用したり、余計な掲示物をなくすなどの環境配慮を行っている。 ・各利用者様ごとに使用する補装具等や設定の情報はスタッフに共有されている。 ・視覚的構造化への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭や書面にて情報伝達する他、掲示にて情報伝達しているが、さらに有益な情報を提供できるようにしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育後には必ず清掃し、棚やおもちゃなどはアルコール消毒を行っている。 ・げた箱などをわかりやすく表示出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットに涎がたれてしまうことがあり、気にされている親御さんもいらっしゃる。汚れたマットは出来るだけ新しい物に交換してほしい。 ・保護者からマットの交換を要望されているが、実現できていない。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に会議を設定している。 ・毎月の会議で目標を達成できているか、反省や次回に向けて改善点を話し合っている。 ・月1回の全体会議や年3回の振り返りと次のケールの計画の会議にて検討している。 ・ケース会議・中間と目標を担当全員で会議に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や利用者様の目標設定や改善の取り組みは実施できている。運営業務のみなおしは随時しているが十分かどうかわからない。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価アンケートに基づいて改善すべきことは行っている。 ・定期的なアンケートや面談を行い意見を聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を作成する際に面談を行い、全般的なご意見を伺っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその家族が分かりやすいように掲示をしている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの内容は迅速に検討し改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価の結果、利用者調査については掲示している。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、十分な研修が行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防により例年より少なかった。 ・資質向上の為に研修等の参加をしたい。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントによるニーズの聞き取りを行った上で作成している。 ・定期的な面接を行い、スタッフ間で話し合いの上、支援計画を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中からもニーズや課題を見つけていく。 	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツールは使用していないが、保育、PT、OT、STのそれぞれの専門分野ごとに評価している。 	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に必要な支援を検討し、実行している。 ・重症心身障害児の特性に合わせて、ガイドラインを参考に具体的な支援を行った。 		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に添った支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じた計画の作成をする。 	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・計画、事前打ち合わせを行い、共通認識のもと、保育士、リハスタッフ、看護師がチームとなって行っている。 ・担当者間で話し合い、登園するお子さんの能力に合わせて活動内容を検討している。 ・相談を行ってあSの打ち合わせも含め、チームで周知出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じたプログラム立案に心がける。 	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節を取り入れた保育内容などマンネリ化しないように工夫している。 ・リハからのアドバイスをもらうなどして、保育の工夫を行った。 ・月ごとに活動内容の反省をし、次回に向けて改善や、お子さんに合わせて工夫をしている。 ・同じ活動であっても、お子さんの状況に応じて、発展的なプログラムとなるよう配慮している。 ・月間の予定を先に決めてその都度相談・修正しながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じてプログラムの工夫をする。 	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の中で個々での対応を考えながら行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画に盛り込み、より具体的な内容を記載する。 	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ前にホワイトボードで流れの確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを絞り、短時間で速やかに行えるようにする。 	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・その日のうちに振り返りは出来ないで、記録をし、月に一回振り返りを行っている。 ・PT・OT・STが入った日は、毎回終了後に打ち合わせを行うことが出来ないで、月に1回、PT・OT・STそれぞれに打ち合わせ会議を設定している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育終了後すぐは難しいが、定期的に会議を開き、保育の振り返りを行い、次の内容に生かすようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や各パートに分かれての記録をとり、よりよい支援に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に会議にて支援の検証・改善を行っている。今後も継続する。 	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で振り返りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行っていく。 		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	・児童発達支援管理責任者とその児童に関わる各パート担当が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	・併用施設との情報交換を行っている。	・他機関との連携や情報共有を深めるためにもっとコーディネーターに頼んでいくべきだと思う。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		・併用している幼稚園、保育園への利用者の情報提供している。	・関係機関との連携を大切にしているが、十分な体制はとれていないので、より充実させていく必要があると思われる。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6		・主に看護師を通して連絡を取り合いながら進めている。	・必要に応じて情報交換をし、連携した支援を行えるようにする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	・併用している幼稚園、保育園への利用者の情報提供している。 ・併用通園しているお子さんの幼稚園見学、保育園での様子を伺い、情報共有を行っている。	・他機関とは情報共有ができていないと感じる。スムーズに情報交換が出来るシステムがあると良いと思う。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・就学に向けての見学、面談などの日程調整を学校側と連絡を取り合いながら行っている。 ・就学前のお子さんへの学校見学の引率・情報提供等を行ない、3者での情報共有を行っている。	・主に年長児に関する情報共有、相互理解を図った。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	・保護者を媒介にして支援計画の交換、あるいは電話で、利用者の様子の情報交換を行った。	・機会は少ないが、今後益々他の自発併用の利用者が増えると思われるので連携を取っていかれたらと思う。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	・機会の計画はあったが、コロナにより今年度は中止。	・感染拡大予防として交流することができなかった。 ・コロナの影響で交流する場がなかった。 ・機会としては十分とはいえない。検討が必要。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	・書面でのやり取りのみ行った。	・感染拡大予防対策として実施されなかった。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・保護者と積極的にコミュニケーションを図るように努めている。 ・院内では必要があれば情報交換している。	・今後も保護者とお子さんの成長や課題について共有しながら支援していく。 ・子どもの状況を客観的に把握し、保護者に伝える。共通理解を持てるよう、保護者とのコミュニケーションを図る。

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	・親御さん向けにペアレントトレーニングの研修を開いたり、通園の時間内で、お子さんとの関り方を助言している。 ・感染拡大予防対策として登園人数・リモートや資料等の工夫で家族への勉強会の実施ができれば良かった。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・個々に面談を行う時間を設けて説明をさせていただいた。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		・親御さんの悩みを聞き、アドバイスをするようにしている。定期的に悩み相談室を開催したり、メールで気軽に相談など出来ると、良いと思う。 ・登園時に声掛けを行うように心がけている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		・話し合いの場所などの提供のみ行っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・相談や申し入れがあった場合は面談を行い、職員間で話し合い迅速に対応している。 ・上司と相談の上、関係スタッフ間で情報の共有をし、迅速に対応を行った。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・毎月、お便りと予定を配布している。 ・今後も定期的に発行し、情報を発信する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		・同意書を頂いている。 ・スマホでの撮影に関して、保育中の個人的な撮影は基本的に禁止としている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		・言葉だけでなく視覚支援などを、活用している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	・新型コロナウイルス流行のため積極的に行っていない。 ・今後については状況をみながら、ボランティアの受け入れなど再開していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	・マニュアルなどの周知、訓練等の実施ができていない。	・センターとしてのマニュアルはあるが、自発としてのマニュアルがあっても良いかと思うので検討していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・センターで実施している防災訓練に参加した。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		・看護師が中心になり、必要な情報は積極的に周知してくれている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		・医師の指示書に基づいて、給食の名札に記載し、間違えないようにしている。	・引き続き医師、栄養士と連携しながら個別対応を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・職員会議にてヒヤリハットの報告をし、職員で周知し再発防止に努めている。 ・パソコン上で記入し、事業所内でいつでも閲覧できる。また、必要に応じて話し合いを行っている。	・引き続き事業所内で共有できる場を設定していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・定期的な研修の実施、振り返りシートにて各々振り返る機会を設けている。 ・年に1度、研修会を行っている。 ・チェックリストを用いて、個々で振り返り	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		・必要時には保護者の承諾を得てから行い、計画書に記載して同意のうえで行えるよう準備をしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。